

知非齋日記

二

14

5757  
2





特  
門 又 6  
號 5757  
卷 2

文政元年

十月

十月  


知非之月記

十四

  
高田早苗



御印帳

松山藩御用印帳

光長邸大御方御用印帳  
御用印帳  
御用印帳

御用印帳大御方御用印帳  
御用印帳大御方御用印帳

知州高島日記

天保元年



十月

癸亥

朔日

再高島

御用印帳

御用印帳

御用印帳

御用印帳

御用印帳

御用印帳

御用印帳

御用印帳



之口付し竹内甚難し好丸  
崎江の口付し好丸  
四日雨七日計より時少ねは  
こもりり河野屋五五  
新道そりしき  
夜中なる可也  
より好丸  
五日付し内  
好丸

出さぬは心付  
内まらぬ  
竹内  
好丸  
七日付し  
好丸



形 四宮とあるにきつむるに母如由伏  
子相文俊 赤井孝威とす所由是  
田原光村よりつてきつむるにりり  
由多子うりあそむは

八日付 小川工の親相向ふせき  
ししくみゆすらん如由だんこき  
そきしき 弘孝と藤原とる  
全そくいすつたれ  
乃方成し 乃名子引 おきづく 示  
井宗安と小川 孫に西あるとある

大ららうらうら 中ちあはれいあは

十日雨竹内直形 赤井とある

くぐれ九とある けうはまきとある  
御田とある 赤井の 厨とある

中丸

十日付 柱脚の赤井留を中丸海  
石原とある 赤井とある 竹内直形と  
赤井とある 赤井とある 赤井とある  
赤井とある 赤井とある 赤井とある  
赤井とある 赤井とある 赤井とある



三日時にお向ひては子ごうの中を  
原野之馬の行を仲行内を  
尾を名を流すおれ大田の  
高きを控ちち原を名に  
源うしとて

さる所へ行内並形お向ひて  
おれ小竹の神素守を名に  
お向ひては子ごうの中を  
がふいよふのさるの  
お向ひては子ごうの中を

五九

お向ひては子ごうの中を  
お向ひては子ごうの中を  
お向ひては子ごうの中を

お向ひては子ごうの中を  
お向ひては子ごうの中を  
お向ひては子ごうの中を

お向ひては子ごうの中を  
お向ひては子ごうの中を  
お向ひては子ごうの中を

お向ひては子ごうの中を  
お向ひては子ごうの中を  
お向ひては子ごうの中を



あつた

云つたりたつた後まのちろちろに  
たつたのちろちろにたつたのちろちろに  
也親へのお念行まのちろちろに  
伊留をせしむる所も中河に言ひまは  
國は身ちろちろにたつたのちろちろに  
しとのちろちろにたつたのちろちろに  
吾はたつたのちろちろにたつたのちろちろに  
竹取仲行のちろちろにたつたのちろちろに  
まのちろちろに

十五日のちろちろにたつたのちろちろに  
之のちろちろにたつたのちろちろに  
えんちろちろにたつたのちろちろに  
一とつたのちろちろにたつたのちろちろに  
ちろちろにたつたのちろちろに  
海島ちろちろにたつたのちろちろに  
芝田何れにたつたのちろちろに  
藩ちろちろにたつたのちろちろに  
まのちろちろにたつたのちろちろに  
ちろちろにたつたのちろちろに







山の穂一ゆき法殿とて此處を射  
多聞きこひてくしゆらん 雲  
法新しゆきしゆらん

十七の成りしゆきしゆらん  
乃其れ山の穂一ゆき法殿と  
原す連流きしゆらん 杉田きしゆらん  
もしくおりのみまおのゆき法殿と  
平田篤流きしゆらん 杉田きしゆらん  
己ゆきしゆらん 杉田きしゆらん  
出むえしゆきしゆらん 杉田きしゆらん

後中穂一ゆきしゆらん 杉田きしゆらん  
しゆきしゆらん 杉田きしゆらん  
しゆきしゆらん 杉田きしゆらん  
十九の成りしゆきしゆらん 杉田きしゆらん  
乃其れ山の穂一ゆき法殿と  
原す連流きしゆらん 杉田きしゆらん  
もしくおりのみまおのゆき法殿と  
平田篤流きしゆらん 杉田きしゆらん  
己ゆきしゆらん 杉田きしゆらん  
出むえしゆきしゆらん 杉田きしゆらん



小松のお田のあつこいふおつらん  
杉印のあつこいふおつらん  
大田のあつこいふおつらん  
お田のあつこいふおつらん

お田のあつこいふおつらん  
お田のあつこいふおつらん  
お田のあつこいふおつらん  
お田のあつこいふおつらん

お田のあつこいふおつらん  
お田のあつこいふおつらん  
お田のあつこいふおつらん  
お田のあつこいふおつらん

お田のあつこいふおつらん  
お田のあつこいふおつらん  
お田のあつこいふおつらん  
お田のあつこいふおつらん

お田のあつこいふおつらん  
お田のあつこいふおつらん  
お田のあつこいふおつらん  
お田のあつこいふおつらん



サツラ成 何物をいふに成るこゝろ  
とや。相向いあふこち何れも  
断れぬ事ありきとてさうと  
也屋系宗寛子ありて  
サツラ成 相向いあふ事能く  
まうおれり申す間大田作  
也屋系宗寛子ありて大田作  
取こしとていふ事あり  
サツラ成 三石兵庫 おと殺平  
正安子孫平田等流石の正

スサツラ成 何れもいふに成るこゝろ  
候話さうらの事ありしけり  
の印中よりあり大田作相向い  
あふ事ありきとてさうと  
穀子ありてさうと  
サツラ成 大田作相向い  
あふ事ありしけり  
内を新橋にありて大田作相



升乃政業おまの我高き一に之痛  
かきしづる九少おるる候子あはれもあはれ  
田所をうらむしよとせやう  
か言る南内五好田奇り物子了  
えいせおまおあつるまのまきく  
ゆうらん之候法つる升年  
あしげん

升七のあ行内立形相中元光  
小行をゆ 高き存白屋 灯留け  
升子ま升を候あしげん一極

あはれつしよとせやう  
謝承れ高きあふあこせうの只  
はたをうらむとあしげん  
升いりあなる時より時を昇年  
格中たえ九少おるる候子あはれもあはれ  
田所をうらむしよとせやう  
あはれつしよとせやう  
の比目集しとめらみあはれもあはれ  
とあしげん 相上りつる行あり



くおれ  
あるる由平川草海なるなる女井院  
まはるるの由十回にのまあるま  
あまちくゆ将座を海なる少川を  
よみああるまよせを宗宗寛と  
おかしかなるとあくこすく山を海院  
うしとまぶくふるなる  
平川の古林院の歌をまよあまは  
あまのまよこあるまあまのまよ  
よりのまよこあるまあまのまよ

あるるの由平川草海なるなる女井院  
まはるるの由十回にのまあるま  
あまちくゆ将座を海なる少川を  
よみああるまよせを宗宗寛と  
おかしかなるとあくこすく山を海院  
うしとまぶくふるなる  
平川の古林院の歌をまよあまは  
あまのまよこあるまあまのまよ  
よりのまよこあるまあまのまよ



こゝちもいふのたまふ

お三のちまやのちまは神の  
しるまきなりし向ありあはる  
の國なる少井院のゆきあけ  
そまのあしきまのついで  
唐よおそむるをいふに  
とくろいふとて柄をいふと  
いふんおめあはる

廿十年のついでに  
二つとも 新井の

はしこの橋やあるか  
向のそらなりし  
少らぬのそら  
とらぬあしき

昔れは一本の板を  
たきし思の葉を  
少らぬのそら  
とらぬあしき  
あしき  
とらぬあしき



いづかぢりしき日、しを敷うんとして  
弘の類とほつてしをよまうまは保  
と字もかゝるや、おのまのゆまは  
あまのあゝいさきうしすみあゝの例  
のちれあやうまうしうまうはくし  
たし、秋の光魁、秋の正教せん  
景芳ちししとちらう海長あゝのれ  
まよもいさすしちりおまうしし  
のしーの九力のまのちろのてん  
おのまうのまあゝのてん

わがやえ厚ふあゝやの、休養たおぬら  
まよまうし若團金十節の、門のしをこ  
おまの置ふやり、金十節はたおた  
馬つご同落まゝ、棚倉産の臣し

十月小

朔日ひま曇或時、おまの如定おの律  
倍不てあゝあゝの、おまのあゝ  
中何をあゝし、おまのあゝ  
名何あゝし、おまのあゝ  
まゝくゝあゝあゝ、おまのあゝ



宗寛一柳の古お母の事なり  
とて  
書田の地

二日付一不二度上るを建統を海に  
中ぐぐぐ 以て是は山後正也  
也

三の回りのくぬるるなり  
子に田色河かえりかへり  
等。流中が遊はし  
何れ 河勢なるまきなり  
遊はし

宗寛一柳の古お母の事なり  
とて  
書田の地  
二日付一不二度上るを建統を海に  
中ぐぐぐ 以て是は山後正也  
也  
三の回りのくぬるるなり  
子に田色河かえりかへり  
等。流中が遊はし  
何れ 河勢なるまきなり  
遊はし  
宗寛一柳の古お母の事なり  
とて  
書田の地  
二日付一不二度上るを建統を海に  
中ぐぐぐ 以て是は山後正也  
也  
三の回りのくぬるるなり  
子に田色河かえりかへり  
等。流中が遊はし  
何れ 河勢なるまきなり  
遊はし



のまゝありてく 通乳室に於て  
おとせきみしるゑあるまゝおとせ  
了りたりぬるやあつたあつた

をわらうけりいじんはみりて  
いぞそめてよあまきん

よせのみにえきききききき  
輝てあつたあつたあつたあつた  
七日星をほくの海神のあつたあつた  
わ田けん子内を形あつたあつた

梅の中へええええええええええ  
巾のあつたあつたあつたあつた  
系院ねあつたあつたあつたあつた  
山崎と梅あつたあつたあつたあつた  
八日星あつたあつたあつたあつた  
てあつたあつたあつたあつたあつた  
小田あつたあつたあつたあつたあつた  
のあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた



出さむ  
十日早き或る西初き何留るま  
か馬つうまをわう少おるにま  
押ん

十日早き或る西初き何留るま  
若うくやく平二房三院は何ま  
博丸山右首行いしんまをわ  
十二日早きわつ時うるあ四つ所地表小  
院田んか馬つうまをわう少おるにま  
若うくやく平二房三院は何ま

十日早き或る西初き何留るま  
若うくやく平二房三院は何ま  
博丸山右首行いしんまをわ  
十二日早きわつ時うるあ四つ所地表小  
院田んか馬つうまをわう少おるにま  
若うくやく平二房三院は何ま

若うくやく平二房三院は何ま  
博丸山右首行いしんまをわ  
十二日早きわつ時うるあ四つ所地表小  
院田んか馬つうまをわう少おるにま  
若うくやく平二房三院は何ま



出成とも打ちみまゝのこゝろに  
 十段の足らぬ或る田の横にお金貯る  
 先をたやうの内直形の上を建し  
 葉おまをたふ井井井井井井井井  
 つま山をさうりつゝつゝつゝつゝ  
 比るるの海子やがてふふふふ  
 月戸はうりつゝつゝつゝつゝつゝ  
 芝後のはるるるるるるるるるる  
 中うのののののののののののの  
 中うのののののののののののの

五方成り少川の上流若くはまを片  
 といふは後よりみゆらるる田鳥  
 徹切田舎をまじりて九の田並形  
 ともいふはあつた也  
 かろりの中ははるのあつた也  
 中うのののののののののののの  
 十の方面はるるるるるるるるるる  
 まんりつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
 えん厚若くはまをたふふふふふ  
 以



十七日 晴 九月廿一日 凡 葵 田  
会 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟 氏 弟  
後 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田  
う じ じ じ じ じ じ じ じ じ じ  
つ 融 融 融 融 融 融 融 融 融 融  
と 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五  
厚 厚 厚 厚 厚 厚 厚 厚 厚 厚  
仲 仲 仲 仲 仲 仲 仲 仲 仲 仲  
ふ 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後  
十 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

鳥の 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽  
又 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井  
馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬  
う じ じ じ じ じ じ じ じ じ じ  
勢 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助  
十 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日  
等 等 等 等 等 等 等 等 等 等  
弘 弘 弘 弘 弘 弘 弘 弘 弘 弘  
廿 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日



みゆぎの二田は黄良山崎形に既休  
存たかた馬の古田成をうごうとよ  
竹内直形まきづくおあつと魚種  
存を垂いれどがうまうまきとこあり  
所をたかたまらう陸田の棚まき  
あまもくもあつとよのたかまき  
うごうあつとよのたかまき  
りううたのたかまきのたかまき  
廿一日成竹内直形小おき竹内  
田あつとよまきうたかまき

編るまきうごうたかまき  
西の月うごうたかまき  
廿一日成竹内直形  
中お佛をまきまき  
おあつとよまき  
原あつとよまき  
織物田たせ子山のたかまき  
うごうたかまき  
おあつとよまき  
七うごうたかまき



カハ成ハ行内直新上原を流  
すしりく先河全平しりくわ  
火を也はは原中(中)うりいあ  
くあまきき信田中見さの跡き  
く母又やううしきみのそはうみ  
さおしあきえおちけく能地  
号  
あろもけりせのりもく地まお  
うらひのまもあまうたさ  
井田時少原田之原在居つこと大

スあしり買つてあ申ちまがほを  
やがくよ少おらたはよあまやわ  
山母 是れ七言の言高 古の言  
はもまきうけく  
申する言高 小の言申の言を  
とがくよ少おらたはよあまやわ  
孫中おれ者あまのしりあは  
古言言高 申する言高 古の言  
まきうけく能地 言高 古の言  
らん















あまこゝろをみぬれありしち  
はじりてそむきまらぬれはあ  
梅

梅のつぼみはあまのこゝろ  
をみぬれありしち

あまのこゝろをみぬれありしち  
梅のつぼみはあまのこゝろ

あまのこゝろをみぬれありしち  
梅のつぼみはあまのこゝろ

あまのこゝろをみぬれありしち  
梅のつぼみはあまのこゝろ

あまのこゝろをみぬれありしち  
梅のつぼみはあまのこゝろ

あまのこゝろをみぬれありしち  
梅のつぼみはあまのこゝろ

あまのこゝろをみぬれありしち  
梅のつぼみはあまのこゝろ

あまのこゝろをみぬれありしち  
梅のつぼみはあまのこゝろ

あまのこゝろをみぬれありしち  
梅のつぼみはあまのこゝろ















と北西つち原ふ北西つち原  
了らるるのほろろとささる  
けらるる武部と補せ親への十  
おりの家の序にささるる原  
ちどしおちる原とささるる  
廿日 南の山おちる原とささるる  
原とささるる原とささるる  
原とささるる原とささるる  
原とささるる原とささるる  
原とささるる原とささるる

廿一日 豊の原とささるる  
廿二日 豊の原とささるる  
廿三日 豊の原とささるる  
廿四日 豊の原とささるる  
廿五日 豊の原とささるる  
廿六日 豊の原とささるる  
廿七日 豊の原とささるる  
廿八日 豊の原とささるる  
廿九日 豊の原とささるる  
三十日 豊の原とささるる















六日甲午書漢唐書

五月丙寅

味非齋日信



